

母子保健

～ 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保～

課題

妊娠・出産・産じょく期の女性は、短期間で大きな心身の変化に加えて、生まれてくる子どもに父親とともに愛情を注ぎ、育てるという長期にわたる責任を負うこととなります。長期的な視野をもって、この時期における母子の健康を社会的・精神的側面からも支えることが必要です。

市民の取り組み

妊娠中は、飲酒や喫煙をしません。
両親教室などを積極的に利用します。
妊婦健康診査を受診します。

市民の目標

妊婦健康診査を受診する人の増加

母子健康手帳の交付を受けた妊婦 100%
(現状1回目99.3%、2回目95.2%)

妊婦歯科健康診査を受診する人の増加

妊婦 18%以上(現状10.3%)

妊婦の喫煙をなくす

喫煙している妊婦 0%(現状4.4%)

妊婦の飲酒をなくす

飲酒している妊婦 0%(現状8.1%)

フレッシュ・パパママ教室に参加する人の増加

妊婦および配偶者 20%以上(現状14.9%)

市民を支える取り組み

妊婦健康診査や歯科健康診査の受診の機会を提供します。
妊娠中の生活や出産に向けての保健指導の充実を図ります
母子健康管理指導事項連絡カードを普及啓発します。

～子どものこころの安らかな発達の促進と育児不安の軽減～

課題

乳幼児期の子どもこころの発達は、一番身近な養育者のこころの状態と密接に関係があり、また、母親のこころの状態は、父親の態度や生活状態に大きく影響されます。母親の育児不安やストレスを解消するための支援が必要であるとともに、父親が育児に参加していくことが必要です。乳幼児期の子どもこころの健康のためには、母親が育児を楽しめるような育児環境を整えることが必要です。

市民の取り組み

父親が積極的に育児に参加し、母親と協力して子育てを行います。
地域全体で子育てを温かく見守り、必要に応じて支援します。

市民の目標

母子保健訪問指導を利用する人の増加

生後4か月未満の乳児および産婦

25%以上（現状19.9%）

市民を支える取り組み

子育てに関する相談や教室の利用促進に努めます。

育児不安を減少させるような支援をします。

関係機関と連携して、虐待予防および早期発見のための体制を充実します。

関係機関と連携して、子育てを支援します。

～子どもの安全と環境整備～

課題

子どもは、自分で健康を守ることができないので、親を中心とする周囲の人たちが、子どもの健やかな成長と健康に配慮することが必要です。家庭内の事故は、母親だけでなく、父親を始め周囲の人たちが注意することが重要です。子どもの事故や乳幼児突然死症候群（SIDS）などによる死亡を防ぐための知識を普及し、子どもの安全を守っていくことが必要です。

市民の取り組み

子どもの事故防止に努めます。

子どもの周囲では、たばこを吸いません。

子どもに予防接種を受けさせます。

市民の目標

乳児健康診査を受診する人の増加

4 か月児健康診査 現状維持（現状 97.2%）

1 歳 6 か月児健康診査 現状維持（現状 95.5%）

3 歳児健康診査 現状維持（現状 91.5%）

予防接種をする人の増加

三種混合 95%以上（現状 81.9%）

麻しん 95%以上（現状 88.6%）

B C G 現状維持（現状 98.9%）

市民を支える取り組み

乳幼児突然死症候群の予防について知識を普及啓発します。

予防接種を受けるように勧めます。

関係機関と連携して、事故防止対策などの知識を普及啓発します。

～ 思春期の保健対策と健康教育の推進 ～

課 題

思春期は、大人と子どもの両面をもつ時期です。思春期に心身の健康を害することは、将来に悪影響をおよぼすことが考えられます。特に、避妊や性感染症の予防、薬物の乱用の防止などについて、自らが健康を守ることができるような知識を高めるとともに、こころのケアができるような支援をすることが必要です。

市民の取り組み

思春期を始め、全ての人が自らの性に関する正しい知識を身につけます。

未成年者は、喫煙や飲酒をしません。

家庭と地域において、薬物乱用などを許さない環境をつくりまします。

市民の目標

睡眠による休養が十分にとれていない人の減少

小学 6 年生 24%以下（現状 26.6%）

中学 3 年生 50%以下（現状 54.6%）

児童・生徒の喫煙をなくす

小学 6 年生 0%（現状 男性 8.0%、女性 3.9%）

中学 3 年生 0%（現状 男性 12.0%、女性 9.3%）

児童・生徒の人の飲酒をなくす

小学 6 年生 0%（現状 男性 51.0%、女性 46.7%）

中学 3 年生 0%（現状 男性 62.0%、女性 65.7%）

市民を支える取り組み

思春期の心身の健康づくりを推進します。

避妊や性感染症の予防、薬物の乱用防止などについて知識を普及啓発します。